

「五葉山の魅力」

五葉山自然俱樂部
創立10周年に寄せて

⑮

今から五十数年前になるだろうか。住田町立下有住小中学生であったころ、初めて五葉山登山をした。ブナの木がいっぱいあったことを記憶している。今でも年に五、六回は五葉山に登るが、頂上から見る雄大な景色に魅せられているからだ。

二十年前ほど前、全国的に中学校が荒れており、生徒たちの健全さを取り戻すためには自然に親しませることが必要だと考え、住田町立世田米中学校のPTA会員の時、五葉山登山を提案。登山には反対の保護者もいたが、一年生とその保護者で五葉山登山を実施した。

その後、早池峰山や岩

手山にも登った。地元の中

地区、二班「八日町・恵山区」、三班「天嶽地区」、四班「坂本地区」。私が担当したのは二班の「八日町・恵山」で、佐藤紳一郎班長以下、二十六名だった。

正直私は戸惑っていた。登山では多くの経験から案内の仕方、興味の

「子どもたちが自然の中で生き生きと活動している」「ブナ林の素晴らしい、山の神秘性をあらためて感じた」「人間がいて自然があるのではなく、自然のなかに人間がいる」「なんて気持ちいいんだらう」「山の感触。子どもたちも新鮮な感想を寄せている。」

事前踏査で確認できたことは「子どもは指示に従って動かすのではなく、自由に動かすことが大切だ」ということだった。子どもたちの主体的な参加を内包したこの自然観察会は、子どもたちの豊かな感受性、いわば感じる力、発見する力を引き出すことの素晴らしさを教えてくれた。

【執筆者プロフィール】住田町世田米在住、六十九歳。手作りの木製登山用杖を提供し好評。登山地区少年指導員として小・中・高の健全育成の巡回指導二十年。世田米地区防犯協会理事、住田高校地域文化選択講座講師、上有住小学校(現有住小学校)の自然観察会、五葉山登山の講師などを務めた。

輝いていた子らの目

住田町世田米

紺野

忠

引き出し方を自分なりに持っていたが、自然観察会は初めてのことで子どもたちをどのように導いたらよいか思案していたからだ。が、そんな心配も杞憂だった。

森の中に入ると子どもたちが「発見」の先生になった。カエルの体の色のこと、窪みにたまった腐葉土と木の育ち方、倒れた木に宿る新しい命な

生き生きとしていた子どもたち、輝いていた子どもたちの目、そのことがとても印象的だった。

五葉山自然観察会記録「上小五・六年生私たちが自然観察会」に親子も五葉山麓の大自然に興味を深め、関心を高めていることを知ることができた。

保護者からの一言感想。最終計画をつくる。

自然観察会で説明する筆者(左)。自然の営みをみんなで見つめる、気づいたことを教え合う、森の中で「発見の先生」となり、イキイキする子どもたち。「森にただただ気持ちがいい」

自然観察会では説明する筆者(左)。自然の営みをみんなで見つめる、気づいたことを教え合う、森の中で「発見の先生」となり、イキイキする子どもたち。「森にただただ気持ちがいい」



リレー
エッセイ